追悼号：升島努教授の思い出

升島先生を偲んで

唐澤 薫

Kaoru KARASAWA

株式会社エービー・サイエックス

先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

1. 初

升島先生に初めてお目にかかったのは、17～18年位前、先生が当時助手をされていた尾島さん（現(株)島津製作所）と一緒に、新浦安のデモラボに来社されたときでした。微量な生体サンプルを持参され、ご依頼は、「2種の混合成分の確認」だったと記憶しています。機種はMarinerというApplied Biosystems時代のSingle TOF-MS。微量ということで、Nanosprayでまずチャレンジしたものの、うまく出ず、塩の影響と思われたので、急きょLC-MSに切り替えて測定しました。結果が出た時点で先生が大喜びされて、当日の論文か何かの締め切りに間に合わせるため、尾島さんに出た時点のスペクトルを持って先に大学に戻って対応されるよう指示されたのを覚えています。

まだ私がMSのアプリケーションサポートとして駆け出しの頃で、自分としても結果が得られ心底ほっとしたこと、尾島さんの速帰りと合わせて、先生の喜ばれた顔を今でも鮮明に覚えています。

2. Nanospray用のTip

その後、Mariner, QSTARとご使用いただいていたのですが、先生が主に使用されているイオン化法はなぜか標準のESIではなくNanosprayでした。当時市販されていたSpray Tipがなかなか安定しないなか、なぜ？と伺ったところ、「学生さんに使ってもらうのに装置が汚れないからいいが、やはりTipに不安あり」とのことでした。そんななか、ある日先生から、「Tipを試作していてQSTAR用も作成したから試してもらえないか」というお話をいただきました。社内でも、Userの先生方も困っていたので、是非にということでもう一度伺ったところ、なぜか長さが合わず、「QSTARのNanospray自体が新型に変わっています」ということで長さの変更を依頼し、Testさせていただいたところ、「簡単に安定してイオンが出ます！」ということで、早速使わせていただくことになりました。今のHUMANIX社のNanospray Tipの原型だったと思います。困っているなら作る→起業、販売する、の発想力と実行力に感服するばかりでした。

3. Training &

升島先生ご自身がHardwareを作っていたりすること、先生から「研究室にはさまざまな方面のBackgroundをお持ちのスタッフ、学生の方がいらっしゃる」と伺っていたことから、半分予想はしていましたが、Trainingにお邪魔した際の質問やDiscussionがHardからSoftまで多岐にわたるもので、新鮮かつ有意義でした。また、装置の裏に回って電気系統の調整をしている際に同席を希望されたり、Hardwareの改造の相談があったりと、都度、通常と異なる内容があり、先生のご研究を見せていただくことと併せて楽しく訪問させていただきました。

4. Metabolomics

多変量解析のSoftwareをご愛用いただいていたこともあり、SCIEX主催のセミナー、VOCのHearing、学会の講演など、Metabolomicsに関連するお話を聞かせていただく機会が何度かありました。7年位前？まだMS/MSライブラリがほとんどなく、見つかった差分のいくつかの構造解析だけで苦労していたころ、先生から「Metabolomicsの研究は差分を見つけてその構造が決まればいいのではない。Biological Significanceを知ることが重要。そのためには」といったより大きな視点でのお話をさせていただきました。お話の内容と考え方を現在の業務の中で参考にさせていただいています。

5. 一細胞

升島先生と水野先生（現静岡県立大）、津山先生（現福島県立大）、江崎さんほか、研究室の方々のご厚意で何度か実際

升島先生からの年賀状。平成28年の年賀状に元気になりました。とあったのですが、残念です。

の流れを見せていただきました。初めて拝見させていただいた際、顕微鏡下でサンプリングした一細胞から、そのまますぐに本当にイオンが出るのに驚き、訪問のたびに、装置が改良され、自動化が進み、MSの台数が増えるにまた驚きと、驚きの連続でした。また、先生が「海外からのコラボの話はきているが、日本の予算でできた技術なので、海外の企業からのOfferに応えるより、まずは国内の企業に協力、技術提供したい。」とおっしゃっていて、その後、実際に多くの国内の企業や研究室の方々から、先生のところとコラボしている話を伺ったのを覚えています。一昨年に食事を一緒にした際に「第一世代は技術提供も含め完了、次は第二世代に入ります。どんな技術かはまだ秘密です。」と楽しそうにおっしゃっていらっしゃいましたが、「そのお話を伺えるのを楽しみにしています。」とお伝えしたままになってしまったのが残念でなりません。

6. ご冥福をお祈りして

愛車のベントレーを遠方から自力で運ばれた話やカリフォルニア情報、三重極MSの製作から一細胞のご研究、電気自動車を作るための交渉などで海外を飛び回られている話など、お目にかかるたび、先生がさまざまなお話を楽しそうにされている姿が今でも思い浮かびます。先生から学んだ、いつまでも夢をみてチャレンジする精神を忘れずにいたいと思います。

先生のご冥福を心からお祈りいたします。